

W32-Q8221S

アドバンテスト

光マルチパワーメータ Q8221

使用できる機種 Q8221

| 品番 | GP-IBボード | 価格 | 動作環境 |
|--------------|-----------|---------|---|
| W32-Q8221S-R | ラトックシステム製 | 92,000円 | Windows 7/8.1/10/11 (32bit or 64bit) Excel2013/2016/2019 2021 (32bit Only) |
| W32-Q8221S-N | NI製 | | |

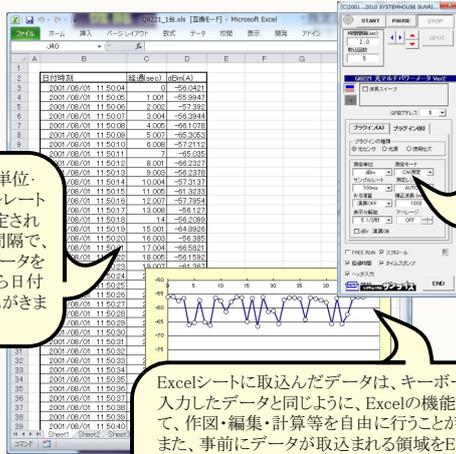
Q8221は、アドバンテスト社の商標です。

機能



- ・指定された時間間隔でのデータ連続取込を行います。
指定された時間間隔で、指定された回数のデータをリアルタイムで Excelシートに取り込みます。最大 20万回までのデータの取り込みが可能です。
- ・スポット測定モードで製品検査にも使用できます。
「SPOT」ボタンを押すごとに、表示値をExcelシートに取り込むことができますから、製品検査にも使用できます。
- ・補正波長のスイープ測定が可能です。
Excel上に入力した補正波長値により、波長値を自動的に可変しながらの自動測定が可能です。

概要



スタートすると、測定単位・測定モード・サンプルレート等を設定した後、指定されたサンプリング時間間隔で、指定された回数のデータを取込みます。必要なら日付時刻も付加することもできます。

本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。Excel上から本アドインを起動すると、Excelシート上に、このウィンドウが現われます。測定単位、測定モード、測定レンジ、時間間隔、取込回数等を設定し「START」ボタンをクリックするとデータの取り込みを開始します。

Excelシートに取込んだデータは、キーボードから入力したデータと同じように、Excelの機能を利用して、作図・編集・計算等を自由に行うことができます。また、事前にデータが取込まれる領域をExcelのグラフィックで設定しておけば、データ取込とグラフ化がリアルタイムに行えます。
※本アドインに自動グラフ作図機能はありませんので、Excelのグラフィックを使用して作図してください。

測定中は、データ表示を邪魔しないように、ウィンドウは下図のように縮小表示となります。



操作説明

測定器からデータの取込を開始します。「PAUSE」を先に押してから「START」を押すとスポット測定モードになります。「SPOT」ボタンが有効になり、「SPOT」をクリックするたびに、データが取込まれます。

測定の時間間隔を入力します。空欄またはゼロを入力すると、最速での取り込みになります。0から3,600秒の範囲で入力します。

取込回数を入力します。最大20万回まで入力できます。取込データが、Excelの最下行に到達すると、データは右側の列の先頭から入力されます。

測定する単位を設定します。

サンプリングレートを設定します。

演算方法を設定します。

測定桁数を設定します。

チェックをつけると、測定開始時に強制的にdBr演算をONにします。しかし、チェックを外した場合は、現在のdBr演算ONまたはOFFを継承します。

測定中測定器を「FREE RUN」に設定します。

測定データと同時に、開始からの経過時間もExcelに入力します。

Excelシートへの測定項目ヘッダの入力の有無を指定します。



連続測定中は、測定を一時中断します。中断中は、「SPOT」ボタンが有効になりますから、「SPOT」ボタンでスポット測定ができます。再度「PAUSE」ボタンを押すと、連続測定モードに戻ります。「PAUSE」を最初に押した後、「START」ボタンを押すと、スポット測定モードになり、「SPOT」ボタンを押すごとに、データを取込みます。

測定を強制的に中止します。

スポット測定モード、または、連続測定中の一時中断時に有効になります。このボタンをクリックするごとに、1回だけデータを取り込みます。

スポット測定モードの時だけ有効になります。測定データの入力セル位置を、再指定します。現在のセル上のカーソル位置が、新たしい、データ入力位置になります。

測定器側のGP-IBアドレスを設定します。

装着されているプラグインの種類を設定します。

測定モードを設定します。

測定レンジを設定します。

補正波長を入力します。

アベレージ回数を設定します。

測定データが、常に画面に見えるようにExcelシートを自動的にスクロールします。

測定データと同時に、日付時刻もExcelに入力します。

光源プラグインの設定

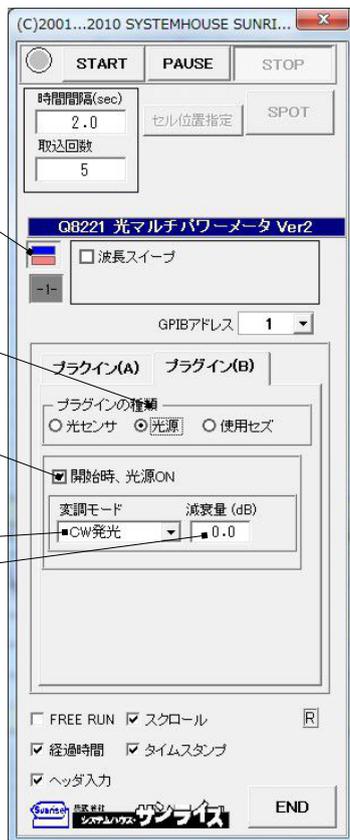
上がA、下がBのプラグインを表します。プラグインが、光センサ測定の場合は青色、光源の場合は赤色で表示されます。グレーの場合は、無視されるプラグインを表します。

「光源」を選択します。
注)
もし、プラグインが装着されていても、パソコンの制御対象から外したい場合は、「使用セズ」を選択してください。

測定開始と共に、光源出力をONにしたい時にチェックを付けます。
測定開始ボタンを押すと、まず、光源プラグインの設定を行いONにした後、光センサプラグインの設定を行います。

変調モードを設定します。

減衰量を入力します。



補正波長スweep測定の方法

波長スweepの測定方法は、「波長スweep」をチェックし、下記条件を全て設定した後、「START」ボタンを押します。

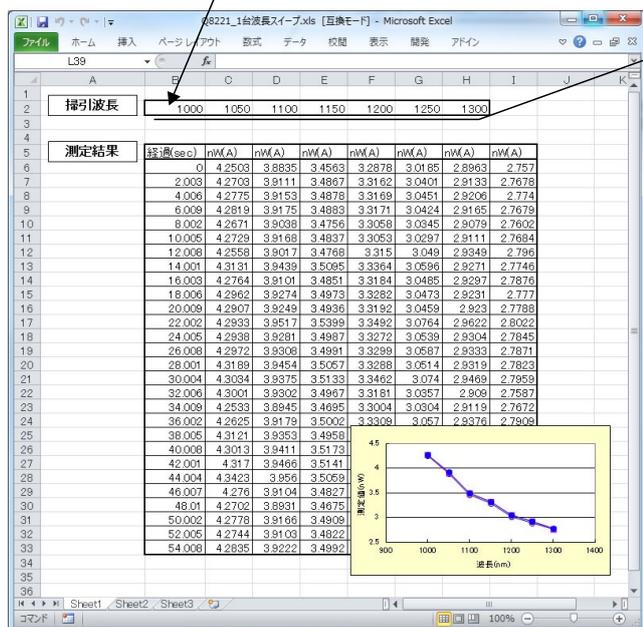
波長値は、A,B両チャンネルとも、同じ値がセットされます。

波長変更後、測定までの遅延時間を「秒」で入力します。

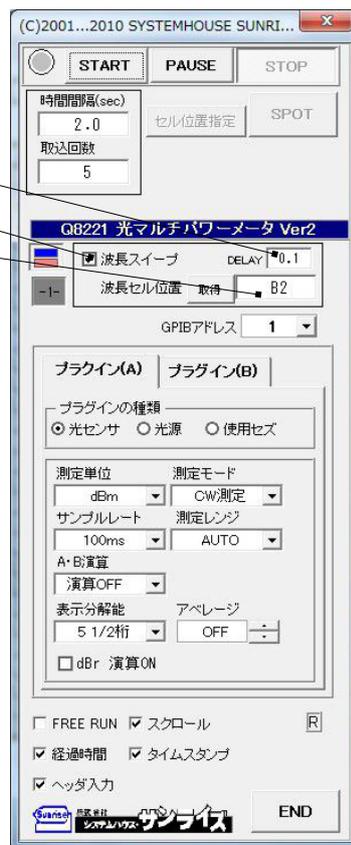
「波長スweep」をチェックします。

Excelシートに入力した波長値の先頭セル位置を設定します。設定の方法は、まず、Excelシート上の波長値を入力した先頭セル位置にカーソルを置いて、「取得」ボタンをクリックします。

このセル位置を、「波長値の先頭セル位置」として設定します。



Excelに入力した掃引波長データ例



波長スweep測定例